

ソーシャルキャピタルを育む女性研究者支援

(実施期間：平成 20～22 年度)

実施機関：慶應義塾（総括責任者：清家 篤（安西 祐一郎））

プロジェクトの概要

女性研究者が出産・育児等のライフイベントと研究を両立させ、研究者としてのキャリアの継続を可能にする、コミュニティ形成とソーシャルキャピタルの醸成を狙った以下の一連の支援策を実施する。【推進体制整備】1. 男女共同参画ワーキンググループの設置。2. ワークロードを削減した勤務体制の整備、代替要員の配置。3. IT を活用した情報支援環境整備。4. 育児中女性研究者のための施設整備。5. トレーニングプログラム・人材育成等での、地域 NPO・保育園との連携。【育児支援】1. 学生・地域住民による一時保育支援。2. 保育・介護の地域資源の情報提供。【エンパワーメント支援】1. 相談窓口の設置、キャリア構築に関するコンサルティング、インターン制度。2. ネットコミュニティの形成支援。3. 附属中高等部と連携したキャリア構築支援。4. 講演会・シンポジウムの開催。5. 国際的女性研究者ネットワーク構築。【調査・研究推進】1. ワークライフバランス、男女共同参画に関するニーズ調査。2. ワークライフバランスの研究推進。

(1) 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	a	a	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

全教職員、学生、卒業生、さらに、NPO 法人、地域自治体、地域住民を巻き込んだ取組とすることにより、ソーシャルキャピタルの醸成に繋げようとする都市部の大規模私立大学ならではの特色豊かな提案であり、限定的ではあるが成果を上げている。自律性の高い6キャンパスそれぞれにワーキンググループを組織し、各キャンパス特有のニーズを踏まえた取組を実施しており、取組の全学展開、また、女性研究者のためのネットコミュニティの構築は評価できる。

目標達成度：推進体制整備、育児支援、エンパワーメント支援、調査・研究推進については、ほぼ目標を達成しており評価できる。今後、ワークロード軽減制度の全学への展開及び、相談窓口の設置を期待する。

システム改革の成果：女性研究者のための支援基盤の構築及び環境整備の全学展開は評価できる。その成果を男女共同参画意識の醸成、安定的な職の女性研究者の増加につなげることを期待する。女性教授が4名増加し、医学部で初の女性教授1名が誕生したことは評価できる。

取組：各キャンパスの活動を促進しボトムアップの支援体制を整えることで、全学での取組の実施を実現しており評価できる。育児支援については利用実績が上がらなかった原因の解析、改善を期待する。

波及効果：育児や介護の地域資源に関する情報集積の取組、及び自律性の高い6キャンパスにおける取組の全学展開について、他機関への波及効果が評価できる。

実施体制：機関長、担当理事のリーダーシップの下に、ワークライフバランス研究センターが中心となり施策が実施されており、妥当な実施体制であり評価できる。

実施期間終了後における取組：取組は、塾長直下の男女共同参画室において継続して実施される。女性研究者のニーズの高かった研究補助員制度の予算は大幅縮減されており、また、育児支援のための予算が明確にされておらず、取組の継続性を担保するため予算の確保が必要である。理工・医学部における女性研究者の増員目標が設定されているが、具体的な推進策の検討、実施が必要である。